

2019年度 我が校の学ぶ力向上策(実施計画)

【市町 目標】

学ぶ力向上のための3本柱

- 基礎基本の徹底・定着
- 「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善
- 本時の学習と結びつく家庭学習の充実

【学校 重点目標】

○校内研究は「伝えたい気持ちを育てる授業づくり～自分の思い・考えをもち、学び合い高め合う子の育成」をテーマに、カリキュラムマネジメントの視点から教科の枠をはずして、学ぶ意欲を引き出す学習集団づくりに取り組む。

○「めじとま」の質の向上に加え、「ふり返り」を定着させることで、子どもたち自身が学びを実感できる授業づくりをめざす。

【現状と課題】

○昨年度から「ふり返り名人」を活用し、授業のふり返りを行っているが、教師自身がふり返りの意義を十分理解できていないので、子どもたちのふり返りが深まらない。

○ペア学習、グループ学習などでの話し合いが形だけのものとなっていることが多い。(必然性を子どもたちが感じていない。)

○校内研究での取組の成果が日々の授業になかなか生かされず、単発の授業で終わってしまっている。

取 組		
視点1	視点2	視点3
学びを実感できる授業づくり	学ぶ意欲を引き出す学習集団づくり	子どものために一丸となって取り組む学校づくり
【取組事項】 ○年間3本の全校校内研究を軸に、様々な教科で話し合う活動を取り入れた授業を行う。(1人1授業) ○「ふり返り名人」を活用し、全教科でふり返りすることを定着させ、子ども自身が本時の学びをふり返る習慣をつける。 ○基礎学力定着のため、暗唱チャレンジ・家庭学習のてびき配布・読書力アップの取組・スキルアップタイムの充実に取り組む。	【取組事項】 ○「話し合う必然性」のある話し合いの場を設定することを、校内研究授業を通して全職員で学ぶ。 ○「話し合うことが楽しい！」と思える授業を仕組む、学年に応じた話し合いのスキルを身に付けさせることを、校内研究を通して学ぶ。 ○お互いを受け入れる温かい雰囲気、学級経営が、学ぶ意欲のベースになることを意識して、年間35時間の学活を充実させる。	【取組事項】 ○全校授業研究会の事前検討会は2部会と違う日に設定し、すべての教員が指導案検討に参加できるようにする。 ○学力学習調査を全教員で採点・分析し、課題を洗い出し、具体的な取組を話し合い、各学級で実践する。

その他 取組事項

- ・スキルアップタイムを計画的な学習と位置づけ、授業時間にカウントできる内容とする。(火…算数 水…English 木金…国語)
- ・全校で暗唱チャレンジに取り組む。
- ・学校図書館司書と連携し、学級文庫の充実、調べ学習の資料準備、学校図書館の活用、単元の導入やまとめでのブックトークや読み聞かせなど、本に触れる機会を増やす取組を充実させる。

取組の評価

	取組事項	評価指標	1回目 評価	2回目 評価
視点1	全校校内研究会の実施	【学校教育評価】(教師) 授業研究会や校内研修等を通して、指導力は向上しているか		
視点2	学力向上部会で「必然性」のある話し合いについて検討	【学級調査質問紙】学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う		
	学級経営のふり返りを行う	【学級調査質問紙】あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると思う		
視点3	学力向上部会での指導案検討	【学校教育評価】(教師) 課題解決的な学習や体験学習を重視し、指導方法の工夫に努めているか		
	学力学習調査の結果検討	【学校教育評価】(教師) スキルアップタイムを有効に活用し、基礎的・基本的な内容の習熟・徹底は図れているか		
読書	読書力アップの取組	【学校教育評価】(児童) わたしはすすんで読書をしています		
基礎	暗唱チャレンジの取組	【学校教育評価】(児童) わたしは何事にも途中であきらめしないで、最後までがんばっています		

評価:【達成状況 90%以上→A 70%以上89%未満→B 70%未満→C 時期→1回目9月 2回目2月】

今年度の課題	次年度への対応策
・学級調査ではケアレスミスや問題をきちんと読み切れていないと思われるミスが見られる。基礎学力の定着とふり返りを重点的に行う必要がある。	